

まなぶくんだより

和歌山県教育センター学びの丘 広報誌



平成30年度全国学力・学習状況調査 サンプル分析活用のお願い

4月17日に全国学力・学習状況調査が実施され、県内の小学校229校、中学校120校（義務教育学校及び一部の特別支援学校を含む）、計349校、約1万5200人の児童生徒が、この調査に臨みました。今年度の調査では、毎年行われる国語、算数・数学に加えて、3年ぶりに理科の調査も実施されました。

学びの丘では、毎年、本調査実施後に、県内の数校から解答用紙のサンプルを回収し、採点及び分析を行っています。これは、分析した結果をもとに、誤答から見られた児童生徒の課題を示したり、課題解決につながる授業改善事例を提案したりすることにより、各学校が早期に校内研修等で活用し、学習指導の改善・充実を進めていくことをねらいとしています。

このことについては、県で作成した「平成30年度学力向上プログラム」（図1）に位置付けており、4月の全国学力・学習状況調査から10月の和歌山県学習到達度調査までを「指導改善サイクル1」として、全国学調の結果を自校で分析するとともに、今回行ったサンプル分析や7月末に出される文部科学省の調査結果、そして7月と9月に実施する評価問題を活用して、自校の課題解決に取り組めるようになっていきます。

また、「指導改善サイクル2」では、和歌山県学習到達度調査の結果を受けて、授業や冬休みを活用して、さらに見えてきた課題の解決に取り組む、2月の評価テストで今年度の学力向上の取組を最終チェックできるようにしています。

各学校におかれましては、このプログラムに基づき、学びの丘ウェブページに掲載するサンプル分析の動画資料（図2）やマスター問題集等も活用し、全教職員一丸となって児童生徒の学力向上に取り組んでいただきますようお願いいたします。

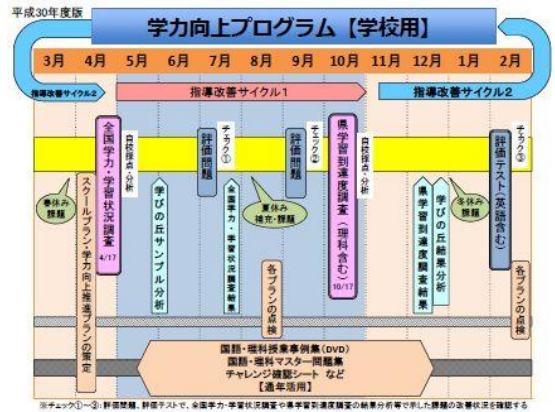


図1 平成30年度学力向上プログラム

A 8四2【課題が見られた設問】

授業例

- 文章の中から主語と述語とを区別して取り出す活動。
- 長い一文を複数の文に分け、それぞれの主語と述語を取り出す活動。
- 主語と述語の照応を意識した推敲。

工夫点

- ・カードやワークシートの活用
- ・グループやペアで、区別した理由を説明し合う場の設定

（例文）

少年がお年寄りの荷物を持とうとしている姿に心を打たれた。

主語は「誰か」を表す言葉だから、「少年が」が「主語」と思いました。

「少年が」は「心を打たれた」の「主語」なのか？

少年は、お年寄りの荷物を持とうとしているんだよね？だとすれば「心を打たれた」のは誰だろう？

図2 ウェブページに掲載しているサンプル分析の動画資料の一部



平成30年度教科書展示会を開催します

教科書展示会は、「教員や採択関係者の調査研究に資するとともに、保護者等の閲覧に供する」という趣旨のもと、毎年全国で開催されるものです。今年は県内36か所で6月15日（金）から14日間実施されます。

中央教科書センターの役割をもつ学びの丘は、今年度、県立紀南図書館内で、教科書展示を行います。みなさんのお越しをお待ちしています。



昨年度のアンケートから

小学校から高等学校、特別支援学校までの教科書が一室に展示されていて、勤務先種以外の教科書も興味深く見ることができました。

他社の教科書と比較をし、それぞれの単元について考えることができました。

他郡市の先生と教科書の違いについて話す機会となりました。

県立紀南図書館

6/15(金)～6/30(土)
※月曜休館日
平日 9:00～19:00
※土・日は18:00まで

〒646-0011
田辺市新庄町3353-9
県立情報交流センターBig・U内

展示会の期間以外でも、学びの丘で教科書を閲覧することができます。

【問合せ先】 (0739) 26-3494（学校支援課）





学校現場に還元できる研究の成果を目標に、日々研究と修養に励んでいます 平成30年度 長期研修員の紹介

「長期研修員制度」は、教育に関する専門的・技術的事項について修養を積み、教員としての資質・能力を高めるとともに、今日的教育課題解決のための研究を行い、その成果を広く学校現場に還元することを目的としています。研修員は、各自が設定したテーマについて研究を進めるとともに、「授業実践力向上」、「生徒指導力向上」、「マネジメント力向上」に関するトレーニングや、専門性の向上をめざす研修等の受講を通して、ミドルリーダーとしての資質・能力の向上に日々努めています。今後、様々な場面で学んだことを所属校等に還元していく予定です。今後の研修員の活動に注目いただくとともに、御協力の程よろしくお願いいたします。



【授業実践力向上トレーニングにおける「授業力」についての発表場面】



【マネジメント力向上トレーニングにおける自身の取組に対する省察場面】

所 属 校	氏 名	第1回研究報告会での研究内容
紀の川市立中貴志小学校	雑賀 正 登	小学校算数科における表現力を育成する授業づくり
和歌山市立雑賀小学校	片 峰 麻 美	子供が社会的な見方・考え方を働かせる授業づくり
和歌山市立東中学校	須 川 滯	見通しをもって課題に取り組む力を育む理科授業
海南市立巽小学校	松 尾 竜 典	小学校外国語科の授業づくり
湯浅町立田栖川小学校	浦 西 泰 子	指導内容の系統性を見通した説明的文章の指導
田辺市立会津小学校	西 川 朋 美	「数学的な見方・考え方」を働かせる算数科の授業づくり
新宮市立三輪崎小学校	西 田 友 行	目的に応じて読み、表現できる児童の育成
県立はまゆう支援学校	依 岡 舞	教育行政（学校支援業務）
県立新宮高等学校	倉 谷 宣 宏	教育行政（研修業務）

※研究・研修内容は現時点でのものです。また、教育行政については研修内容を表しています。

学び続けるということ

Monthly 所長コラム 教育センター学びの丘 所長 鈴木 晴久

10 読書の楽しみ

『更級日記』（成立：康平二年（1059年）から数年の間）の中に、次のように書かれたところがあります。

作者の菅原孝標女が10歳の頃、父の任地である上総国で、世の中に物語というものがあることを知って何とか見たいという思いを募らせました。自分で薬師仏を作って、「（私を）早く上京させて、たくさんあるという物語をあるだけ全て見せてください。」と祈るほどでした。

特に『源氏物語』に憧れ、「この源氏の物語、一の巻よりしてみなみせ給へ」と心の内で祈っていましたが、十三歳で願いが叶って

上京し、「をば（叔母）なる人」から源氏物語五十余巻をもらうことができました。以下はそこから後の部分です。

（物語を）手に入れて帰る時のうれしさは大変なものだった。

（これまで）とぎれとぎれに少しだけ見ても、（物語のストーリーを）理解できず、じれったく思っていた源氏物語を、第一巻から読み始め、誰にも会わないで几帳の内に寝転んで、少しずつ引き出して読む気持ちは、後の位も何になるか何にもならない。（それほど楽しい）

千年も前に書かれた内容なのに、昨年のコラムで書いた「本を見つけたときの喜び」と気持ちは全く同じです。私はこれを読んだ

とき、千年も前の人と心が通じ合った気持ちがありました。

古典はいくつもの時代や種々の状況から生き残ってきた作品です。それはこれらの作品の中に時代や状況を越えて共感できるものがあるからではないでしょうか。その一つが、この日記の中に書かれた読書の楽しみだと思います。

私はこれまでも、また、これからも、様々な理由で本を読んでいくと思いますが、いつも、この「読書の楽しみ」を心の底に据えておきたいと思っています。

